技術・家庭［家庭分野］学習指導書

各分冊には，指導に当たって必要となる詳細な解説を掲載します。
３部構成で次のような内容となっています。

第１部　題材の指導計画：題材ごとに，題材設定の理由，学習目標と評価の観点（紙面例①），指導計画，支援上の留意点，題材例を掲載します。

第２部　指導の実際：指導時ごとに，指導細案（紙面例②）と指導法研究（紙面例③）を掲載します。

第３部　研究資料：教材研究に必要な解説と資料（紙面例④）を掲載します。

（（紙面例○）はいずれも現行指導書の紙面です。）

内容編

４分冊　各巻　B5 判（体裁・ページ数は予定。変更する場合があります。）

- A　家族・家庭と子どもの成長編……224 ページ
- B　食生活と自立編……272 ページ
- C　衣生活・住生活と自立編……240 ページ
- D　身近な消費生活と環境編……176 ページ

紙面例①

2．学習目標と評価の観点

中学生になるまで……自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考える。

子どもの成長……幼児の観察や遊び道具の製作を通して，幼児の遊びの意義について考える。幼児の心身の発達の特徴を知り，子どもが育つ環境としての家族の役割について考える。

中学生になるまで

学習項目	学習目標	評価の観点：生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
わたしの成長と家族や周囲の人びと	①自分の成長をふり返り，中学生である自分と家族や家庭生活・地域とのかかわりについて考える。 ②自分の成長や生活は，家族やそれに代わる人，身近な人びとに支えられてきたことに気づく。	・自分の成長や生活と家族や家庭生活とのかかわりについて考えようとしている。		・考えたり気づいたりしたことをまとめることができる。	・自分がどのようにして成長してきたかを理解している。 ・自分の成長や生活は家族や身近な人びとに支えられてきたことに気づいている。

子どもの成長

学習項目	学習目標	評価の観点：生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
1　幼児の生活と遊び 1．遊びの中で育つ 2．遊びを支える 3．遊びと発達について考えよう	①幼児にとっての遊びの意味を考える。 ②遊びは幼児の体や心の発達にとって大きな意味があることを理解する。 ③幼児の観察や VTR 視聴などを通して，発達段階により遊びの種類や遊び方，人とのかかわり方などが変化することを理解する。 ④遊び道具の役割を知り，簡単な遊び道具の製作を通して，幼児についての理解を深める。	・幼児の遊びの意味，遊び道具の役割や遊びと発達のかかわりについて考えようとしている。 ・遊びを支える環境について考えようとしている。 ・幼児の観察や遊び道具の製作に意欲的に取り組んでいる。	・幼児に適した遊びや遊びだについて，自分なりに工夫している。 ・幼児の安全や心身の発達を考えた遊び道具を工夫して製作することができる。	・遊びや遊び道具の観察・調査についてまとめ，発表することができる。 ・幼児の簡単な遊び道具を製作することができる。	・幼児にとっての遊びの意義を理解している。 ・幼児の遊びにとっての遊び道具の役割を理解している。 ・幼児の発達と遊びとのかかわりを理解している。
2　幼児の成長 1．体の発達について考えよう 2．心の発達について考えよう 3．生活習慣を身につける	①幼児の体	幼児の体の発育や運動機能の発達	・幼児の心身の発達の過	・幼児の体や心の発達について	・幼児の体の発育や運動機能の発達
3　子どもと家族や周囲の人びと 1．子どもと家族のかかわり 2．子どもの成長を支え合う	①子				

6

紙面例②

指導細案	〔小題材名〕	〔項目〕
教 p.179～181	1 わたしと家庭生活	②家庭のはたらきを考えよう

指導時数：本時 1／累計 2／5

目標
・現代における家庭のはたらきについて理解する。
・家庭のはたらきと社会のつながりについて理解する。

学習項目	学習活動	・指導上の留意点 ★評価（関・工・技・知）	準備・資料
◇本時の目標	・家庭生活で行っている活動や，家庭と社会の連携から，家庭のはたらきを考える。		
○私たちの１日の活動	・私たちの１日の生活を振り返り，家庭生活を送るうえで必要な活動をあげる。	・教科書 p.179「調べてみよう～A さんの１日」を見ながら，自分の１日の生活を思いだし，家庭生活ではどんなことが行われているか，あげさせる。 ★家庭生活で行っている活動に関心をもち活動内容をあげることができる。（関・知）	・小学校教科書 開隆堂「わたしたちの家庭科５・６」参照
○生活に必要な活動調べ	・家庭生活は，どのような活動に支えられているか，多様な活動を分類し，家庭のはたらきを考える。	・主な活動を６つぐらいに分類し，グループでそれぞれ調査させる。 例・「着る」 ・「高齢者の介護や病人の世話」など ★調査方法を進んで考えることができるか。（関） ★インタビューやインターネット，新聞記事などを利用し，工夫して調査できる。（工・技） ・指導時数に余裕のある場合は，調べたクッシュカードなど，発展させ	・新聞やインターネットの記事など
◇家事の担い手はだれ	・家庭の		
◇本時のまとめ	・家庭の		
◇次時の確認	・次週の		

82

紙面例③-1

指導法研究

●教材の扱い方

家庭分野の学習内容の中でも，本題材「わたしと家族・家庭と地域」は生徒の育ってきた環境や生徒の内面に深く立ち入る内容である。本題材は生徒の家庭の状況をしっかり把握したうえで，慎重に扱う。

生活する上で必要な機能は，近代化が進む中で家族に強く期待されるようになってきた。しかし，世帯構成やライフスタイルが多様化する中で，家庭の中だけでは担うことができないことが多くなり，外部サービスや福祉などを利用して生活を維持する場合も増えてきた。たとえば，子育てや高齢者介護などにより家事の労働量が増えたときは，外部サービスや福祉を上手に利用することも大切である。

そこでここでは，家庭の仕事と機能を，家庭の中の仕事と外の仕事を関連づけて考えさせていくことにより，家庭のはたらきについてとらえさせる。また，それらを担っている人に焦点をあて討論することにより，ジェンダーについて気づいたり，今後の自分の生活について考えたりさせる。

◆調査活動の方法

普段から家庭科の学習に関心をもち，理解を高めるため，家庭や家族，衣食住などに関する記事等の資料を収集させたり，それらの記事をもとに新聞やレポートをつくらせたりするとよい。ここではその他にインターネットや統計資料等を，生徒の興味・関心に応じて利用できるようにしておくとよい。これらの学習を積み重ねることによって，家庭科に関する社会問題や家庭生活に対する意識が高まり，蓄積された知識を豊かに表現することにより，教科書 p.181【参考】のディベート学習などを行う上で，有意義な討論が期待される。

○インターネットアドレス
○地域の広報誌
○新聞記事
などから，レポートをつくらせたりするとよい。

紙面例③-2

◆発表の行い方

○グループで調査した内容を発表する。

例「高齢者の介護」について調査したグループ
→デイケア施設の利用のしかたや料金，長所，短所について発表を行う。

高齢者の介護は，家族だけでおこなうのはとてもたいへんです。
どんな有料サービスや地域の無料サービスがあるか，調べてみました。

○○市の老人福祉
●高齢者自立支援訪問事業
・対象者……
・内容……
・利用料　１時間420円
●短期宿泊事業
・対象者……
・内容……
・利用料　１日1,140円

有料ケアハウスとは……

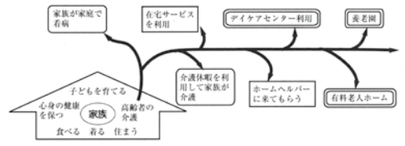
フラッシュカードの提示例

教師が黒板等にあらかじめ貼っておく。

○まとめができたグループから，色画用紙（スプレーの り等で裏が簡単に接着できるようにしておくとよい）に記入し，家庭の中で行っている活動からだんだん外へと向かって紙（フラッシュカード）（15図）に掲示していく。

各グループが掲示すると，家庭を中心に，さまざまな活動が広がり，私たちが行っている活動や私たちの生活を支えているものが明らかになる。

例「高齢者介護」に関する活動



○発表は調査前にポイントを示しておくとよい。特に興味を持った内容や，みんなに知らせたい内容を絞って発表してもおもしろい。

発表のポイント
・どんな活動があるか？（利用方法など）
・利用した場合の長所，短所
・家庭の中で活動する場合に気をつけること
・利用した場合の料金　など

「指導法研究」▶は，３ページ以上になる場合もあります。

84

◆ディベートしよう

○テーマを決める

教科書 p.181「家事の担い手はだれ」の「？考えてみよう」を発展させる内容で，生徒がジェンダーに気づくテーマを設定するとよい。

例・食事は女性がつくったほうがよい。
・子どもが病気の時は，母親がそばについていたほうがよい。
・家庭における家計費の管理は男性がしたほうがよい。など

○資料を集める

テーマに関する資料を集めさせ，あらかじめ討論の準備をさせるが，有意義な討論とするため，教師が不足する資料を補えるよう準備しておくとよい。

【資料例】

表７　時間使用の国際比較　　充当時間（１週間当たり），1995/1999

国	仕事：合計 女性	仕事：合計 男性	仕事：有給 女性	仕事：有給 男性	仕事：無給 女性	仕事：無給 男性	レジャー 女性	レジャー 男性	基本的ニーズ 女性	基本的ニーズ 男性
オーストラリア	51	49	15	30	35	18	35	38	78	77
フランス	46	42	15	26	31	17	29	34	85	84
日本	46	42	20	39	26	3	42	44	75	73
ラトビア	62	56	22	32	40	24	28	33	75	76
オランダ	36	37	10	25	26	11	47	48	76	74
ニュージーランド	49	49	16	29	33	19	32	33	82	80
大韓民国	40	38	23	36	17	2	30	37	79	79

出所：国連事務局統計部コンサルタントの Andrew Harevey が Multi-national Time Budget Archive Database，各国の調査のマイクロデータおよびその他の刊行報告書から作成。
注：有給の仕事のための時間には，実際の仕事時間のほかに，仕事の休憩時間，通勤時間など関連する時間を含む。無給の仕事とは，家事およびボランティア活動を指す。レジャーとは，組織の活動，スポーツ観覧，メディア活動および同様の活動を指す。基本的ニーズとは，睡眠，洗たく，食事，医療などを指す。
（国際連合「世界の女性―動向と統計」日本統計協会）

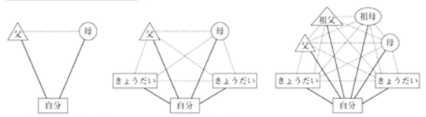
○今後，あなたが，男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要と思うことは何でしょうか。この中から１つ選んでください。

（%）
（12.7）（ア）法律や制度の上での見直しを行い，女性差別につながるものを改めること
（24.3）（イ）女性を取り巻く様々な偏見，固定的な社会通念，慣習・しきたりを改めること
（26.9）（ウ）女性自身が経済力をつけたり，知識・技術を習得するなど，積極的に力の向上を図ること
（13.9）（エ）女性の就業，社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
（11.5）（オ）政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
（ 1.1）　その他（　　）
（ 9.5）　わからない

参照：ワークシート複写編№167

85

紙面例④



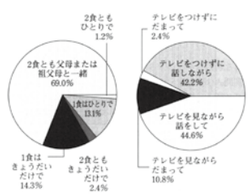
5-2図　家族関係と家族間コミュニケーション通路数

家庭生活の中で多様な人間関係が，年齢や性別，家族内の役割や地位などによって構成されていることを学習していく（5-2図）。

また幼児期には，家族との密接なかかわり合いを心のよりどころとしながら，人間関係や行動範囲を広げていくので，幼児期にどのような家族や家庭とのかかわりをもっているかは重要である。実際に幼児が１日のうち，家族とどの程度一緒に過ごしているのか，またどのようにかかわっているのかをみてみると，親子で共にしたことの第１位は，食事であるが，その食事風景は，家族全員で食べる様子がみられない場合が多く報告されていて，特に父親や同居している祖父母がそろわない場合が多いとされている。また近年話題になっている，孤食を窺わせる様子が幼児期にも見てとれるのである。さらに食事中のテレビなど，家族との交流の貴重な機会である食事の場面が，必ずしも温かい場として認識されていないかもしれないことが指摘されている。

5-1表　幼稚園児が１日のうち父母と一緒にした生活活動　（単位：%）

	父母と一緒（母親，祖父）	父だけ一緒（祖父）	母だけ一緒（祖父）
朝食	25.3	6.0	35.7
夕食	55.4	1.2	41.7
おやつ	4.8	0.0	22.6
入浴	2.4	31.3	42.9
就寝	11.5	7.2	33.3
遊び・スポーツ	12.0	4.8	20.2
ＴＶ・テレビ	21.7	8.4	34.5
散歩	4.8	2.4	11.9
ドライブ	4.8	0.0	10.7
買物	1.2	1.2	28.6
掃除	6.0	0.0	8.3
食事づくり・片付け	2.4	0.0	38.1
勉強	4.8	2.4	19.3
幼稚園送迎	0.0	11.4	63.1
病院など	0.0	0.0	3.6



5-3図　朝食と夕食における家族のそろい方
（5-1表，3-4図は上笹香子，時岡晴美「生活学1992」を参考）

5-4図　夕食の食べ方からみた家族とのかかわり

幼児自身の生活にも変化がみられ，さまざまなけいこごとに通うことが多くなっている P.117～119 参照。けいこごとなどのタイムスケジュールにより，けいこごとのある日とない日では，家族とのかかわり（たとえば，けいこごとに行くため，ひとりで食事をするなど）や，友だちとの遊びに違いがでてくる（たとえば，時間が細切れになるので十分な遊びができないなど）ことなども報告され，幼児の日常の生活について心配りをしていかねばならないだろう。

一方，幼児を抱える母親の生活も変化してきている。有配偶女性の半数以上が有職者であり（総務庁

180

5-2表　末子の年齢階級別子どものいる世帯の母の就業状態（平成11年）　（万人）

区分	総数	末子の年齢：0～3歳	4～6	7～9	10～12	13～14	15～17	18歳以上
子どものいる世帯総数	1,785 (100.0)	333 (100.0)	169 (100.0)	141 (100.0)	145 (100.0)	118 (100.0)	179 (100.0)	692 (100.0)
就業者	963 (53.9)	98 (29.4)	82 (48.5)	85 (60.3)	103 (71.0)	81 (68.6)	124 (69.3)	390 (56.4)
非農林業雇用者	762 (42.7)	78 (23.4)	65 (38.5)	69 (48.9)	87 (60.0)	66 (55.9)	104 (58.1)	293 (42.3)
週労働時間35時間未満	402 (22.5)	43 (12.9)	38 (22.5)	44 (31.2)	47 (32.4)	37 (31.4)	54 (30.2)	139 (20.1)
週労働時間35時間以上	358 (20.1)	35 (10.5)	26 (15.4)	25 (17.7)	38 (26.2)	29 (24.6)	49 (27.4)	154 (22.3)
非労働力人口	794 (44.5)	237 (71.2)	85 (50.3)	54 (38.3)	41 (28.3)	34 (28.8)	51 (28.5)	292 (42.2)
就業希望者	371 (20.8)	114 (34.2)	61 (36.1)	34 (24.1)	23 (15.9)	18 (15.3)	25 (14.0)	86 (12.4)

（注）子どものいる世帯総数：夫婦と子どもからなる世帯数と，夫婦，子どもと親からなる世帯数の合計。
（総務庁統計局「平成11年８月労働力調査特別調査」2000年）

5-3表　性別，年代別，世帯構成別家庭の役割について　（%）

区分	話し合いの場	家族の団らんの場	休息・やすらぎの場	家族の絆を強める場	親子が成長する場	子どもを生み，育てる場	夫婦の愛情をはぐくむ場	子どもをしつける場	親の相談をする場	その他	わからない	計
平成８年７月調査	7,303	70.0	52.0			17.0	18.9	11.1	4.0	0.1	1.9	174.8
平成17年６月調査	6,924	61.1	55.5	46.2	35.8	25.8	25.0	18.2	11.6	0.3	2.8	282.2
男性	3,092	60.4	55.0	42.0	31.5	22.9	23.7	17.7	11.5	0.5	3.5	268.7
20～29歳	299	59.9	58.5	35.1	34.8	25.1	19.7	18.7	9.0	－	5.4	266.2
30～39歳	440	66.8	53.4	44.5	41.1	27.0	25.0	19.8	12.3	0.2	3.4	293.6
40～49歳	465	64.1	60.4	41.9	42.4	34.0	24.5	23.4	14.6	－	2.4	307.7
50～59歳	645	60.5	60.3	42.2	30.9	19.5	22.3	20.0	12.6	0.5	2.5	271.2
60～69歳	677	57.2	53.0	47.4	25.3	19.1	28.5	15.1	12.1	0.9	3.5	262.0
70歳以上	566	56.5	46.5	37.1	21.4	18.0	19.8	11.5	7.8	0.7	4.6	223.9
女性	3,832	61.6	55.8	49.5	39.4	28.1	26.1	18.6	11.7	0.2	2.2	293.1
20～29歳	332	70.8	56.6	45.5	44.3	33.4	27.1	14.8	9.0	0.3	1.8	303.6
30～39歳	605	67.4	56.5	51.9	49.6	33.1	27.9	21.3	9.9	－	1.2	318.8
40～49歳	600	67.0	59.8	51.7	53.5	34.2	26.5	26.0	11.3	－	1.0	331.0
50～59歳	797	60.1	61.2	50.9	42.3	29.6	29.2	21.2	14.7	0.1	2.1	311.5
60～69歳	821	57.6	56.4	51.4	31.3	24.2	27.8	16.6	13.6	0.1	1.7	280.8
70歳以上	677	53.9	44.0	43.4	21.6	18.8	17.7	10.8	9.0	0.4	4.9	224.5
世帯構成：1人世帯	590	38.6	47.6	29.7	24.6	19.0	14.2	12.2	8.5	1.4	12.2	208.0
世帯構成：1世代世帯（夫婦のみ）	1,699	57.3	56.7	44.4	23.0	21.5	30.4	13.7	8.0	0.5	1.7	257.4
世帯構成：2世代世帯（親と子）	3,347	65.4	56.9	47.6	42.4	29.1	24.5	20.7	11.7	－	1.7	300.1
世帯構成：3世代世帯（親と子と孫）	1,152	65.6	54.9	52.9	41.8	26.9	23.8	20.9	17.9	0.2	2.3	307.0
世帯構成：その他の世帯	136	61.8	43.4	47.8	32.4	17.6	25.7	15.4	14.7	－	5.9	264.7

（総理府「国民生活に関する世論調査」2005年）

181